

担当課	教育委員会教育総務課
名称	消えゆく校歌の収集編纂事業
担当課が抱える課題	<p>少子高齢化が進む中で、学校の校区再編が行われ、新しい校歌が誕生している一方で、統合前の校歌は姿を消しつつあります。</p> <p>教育委員会では、懐かしい忘れえぬ校歌を、後世に残していくことの重要性を認識しているところです。</p>
市単独でも課題解決できたこと	校区再編前の学校の歌詞や作詞・作曲者の紙媒体があります。
市単独では課題解決できなかったこと	<ol style="list-style-type: none"> 戦後誕生し消えていった小中学校の校歌の収集 「市単独でも課題解決できたこと」欄で記載したものでは楽譜が無いものもあります。 歌詞、メロディ、原作のピアノ伴奏譜を収集し、無い場合は伴奏譜を作成する必要があります。 音源の作成 1のことに対応し、再演録音して音源が作成できたらと思います。 校歌の誕生の背景 校歌誕生の背景やエピソード、作詞作曲者のプロフィールなども調査紹介したいです。 校歌を紹介する機会 消えゆく校歌を紹介する機会があればと思います。
民間団体と協働することで課題解決できること、あるいは実現したいこと	<p>ノウハウのある地元に関差した団体に関わっていただき、「市単独では課題解決できなかったこと」欄に記載した内容を実現したいと考えています。</p> <p>また、今後新しく誕生するであろう学校の校歌作成や、地域文化の伝承、振興・発展に寄与することにも継続して取り組みたいと思います。</p>
総合計画等での位置付け (当該テーマの解決が総合計画等のどこを推進するか。)	

担当課	多文化共生課
名称	外国人防災リーダー育成事業
担当課が抱える課題	<p>災害時の対応については地域住民1人1人の協力が必要ですが、どの地域でも日本語による日本人住民のための訓練しか行われていません。</p> <p>また、高齢化が進む地域では日本人住民だけで、避難所の開設・運営、救援活動には限界があり、若年層が比較的多い外国人住民の協力が望まれますが、協働する機会やきっかけが多くはありません。</p> <p>また、市では災害時に役立つ多言語ツールを備えていますが、その活用に関わる住民への周知が充分ではありません。</p>
市単独でも課題解決できたこと	<p>外国人のための相談窓口の設置と通訳・翻訳職員の雇用により、外国人住民が抱えている不安や悩み事を個別に対応して解消（軽減）し、安心して暮らせるように支援を行っています。</p> <p>新規に転入してきた外国人住民を対象に、生活オリエンテーションを実施して、災害時についての説明などを行っています。</p> <p>多文化共生センターfacebookなどで、災害時の情報を多言語で発信しています。また、H29年度には「子どものいのちを守るための防災のしおり」を5言語翻訳し、健康推進課事業の「地域で見守りおやこ防災教室」に通訳を入れて外国人保護者にも参加しやすい体制を整えました。</p>
市単独では課題解決できなかったこと	<p>外国人住民は自治会に加入していない場合が多いため、地域での情報が伝わらず、防災訓練などにも参加していません。</p> <p>災害が発生した場合、外国人住民自身がどう対処すればよいかを学習する機会を継続的に提供することが必要です。</p> <p>若い世代が多い外国人住民に、災害に対する知識を習得してもらい外国人住民自らが積極的に防災に関わる仕組みづくりが必要です。</p>
民間団体と協働することで課題解決できること、あるいは実現したいこと	<p>防災組織等に関心をもち、自助、共助の方法について、正しく理解し、国籍に関係なく、被災時に活躍できる人材を育成します。</p> <p>「外国人防災リーダー」を育成することで外国人コミュニティのリーダーとして、外国人に対して防災・減災に関する体験や知識の普及啓発など防災への備えの充実を促すことができます。研修の機会を継続することで外国人住民社会参画の必要性や役割を認識し市民意識の醸成につながります。</p> <p>また、外国人住民は若年層の割合が高く、少子高齢化が進む地域では、地域を支える貴重な人材として活躍が期待できます。</p>
総合計画等での位置付け（当該テーマの解決が総合計画等のどこを推進するか。）	政策6-2 国籍や文化の違いを認め、共生する